

## 英雄の最期 「望郷の歌」

杖衝坂を越えて尾津岬（おつのさき三重県桑名市多度町）の一本松に着き、食事をされていたところ、先ほど忘れてしまったと思っていた刀があったことに気付き次のように、詠われました。

**尾張(おわり)に ただに向へる 尾津の崎なる 1本松 あせを 一つ松  
人にありせば 太刀(たち)はけましを きぬ着せましを 一つ松 あせを**

ミヤズヒメのいる尾張の国に向いたいる尾津岬の1本松よ。なあ1本松よ。お前が人間だったら、この刀をつけてやれるのに。この着物を着せてやれるのに。なあ一本松よ。

さらに三重村（三重県四日市采女）に着いたとき、こうおっしゃいました。

「私の足は三重にがくがくと曲がってしまった。大変疲れた。」そこでこの地を三重といいます。さらに「能褒野」（のぼの：三重県鈴鹿郡）に着くと、ふるさとを懐かしんで、歌われました。

**大和(ヤマト)は 国のまほろば たたなづく 青垣(あおがき)  
山隠(やまごも)れる ヤマト しうるはし**

大和は、日本の中でもっともすばらしいところだ。長く続く垣根のような青い山々に囲まれた大和は、本当に美しい

**命の またけむ人は たたみこも 平群の山の  
熊白橋(くまかし)が葉を髪華(うず)に挿せ その子**

命の無事な者は、幾重にも連なる平群山（奈良県生駒郡平群村）の大きな樫の木の葉をかんざし（当時は魔除けとして使われた）として挿すがよい

以上の2つの歌は思国歌（くにしのびうた＝望郷の歌と呼ばれています）

**はしけやし 我家(わぎへ) の方よ 雲居立くも・・・**

ああ懐かしい、私の家のほうから雲が立ち上がり、こちらへやってきているではないか・・・片歌です

このときヤマトタケルの病気が急に重くなりました。死の直前に詠われました。

**嬢子(おとめ) の床のべにわが置きし 剣(つるぎ)の太刀(たち) その太刀はや**

私がミヤズヒメの寝床に置いてきた草薙の剣。ああ、あの太刀はどうしただろうか

ご安心下さい。日本書紀ではタケルは約30才で没した。「草薙の剣」は国造のミヤズヒメ家管理で創祀された。

ミヤズヒメが亡くなる頃熱田神宮が創建され草薙の剣をご神体とする。以後、熱田神宮（名古屋市熱田区）で守り続けています

そう詠われるとすぐにお亡くなり、ヤマトタケルの死を天皇にお知らせするため早馬を遣わしました。

## 白鳥の陵(みささぎ)

ヤマトタケルの死の報せを聞いたお妃（きさき）や子供たちは能褒野に来て、田んぼのほとりにお墓を作りました。お墓のそばで悲しみながら歌われました。

すると、ヤマトタケルのお墓から一羽の大きな白鳥が天高く飛び立ち、浜のほうへ飛んでいきました。お妃や子供たちは、竹を刈った後を歩き足を傷つけながら、また海に入ったり、浜辺を歩きながら必死に白鳥を追い続けました。

現在陵墓治定：宮内庁。三重県亀山市田村町「能褒野王塚古墳」 前方後円墳 墳長90m。4世紀末造成。被葬者はヤマトタケル。 ゆかりの神社：同じく田村町能褒野神社。主祭神：日本武尊

**なづき田の 稲(いな)がらに 稲がらに 葛(くわ)ひもとろふ ところつづら**

お墓のそばの 稲の上で ところつづら（ツル性植物）のように這い回って悲しんでいます

**浅小竹原(あさじのはら) 腰(こし)なづむじ稲 空は行かず 足よ行くな**

小さな竹のはえた中をすすむのは竹が腰にまとわりついて進みにくい。私たちは空を飛ばず足で行くしかないのです

**海が行けば 腰なづむ 大川原の 植え草 海がは いさよふ**

海の中を進むのは、歩きにくい、まるで大きな河に水草のように、海では足を取られて、ゆらゆらします

**浜っ千鳥(ちどり) 浜よは行かず 磯づたふ**・・・伝説最後の歌。誄歌（るいか）第四で今に残る

浜地鳥のように、あなたは陸の上を飛ばないで 磯づたいに飛んでいかれるのですね

以上4つの歌はヤマトタケルのお葬式で歌われた歌です。今でも天皇のお葬式で歌われるそうです。

白鳥は、能褒野を飛び立ってから河内の志紀（現在の大阪府柏原市付近）にとどまりました。そこでその地にお墓を造りヤマトタケルの霊を鎮められました。このお墓を白鳥の御陵といいます。

白鳥は再び舞い上がりどこかの地へと飛んでいきました。地理院地図での「日本武尊陵」は「白鳥陵古墳」として、2019年世界遺産登録の古市古墳群を構成する古墳のひとつになりました。